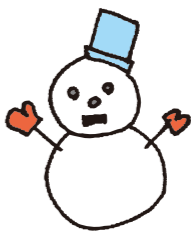


# 心のめばえ

<15>

著者／牟田 泰三  
挿絵／橋本 礼子

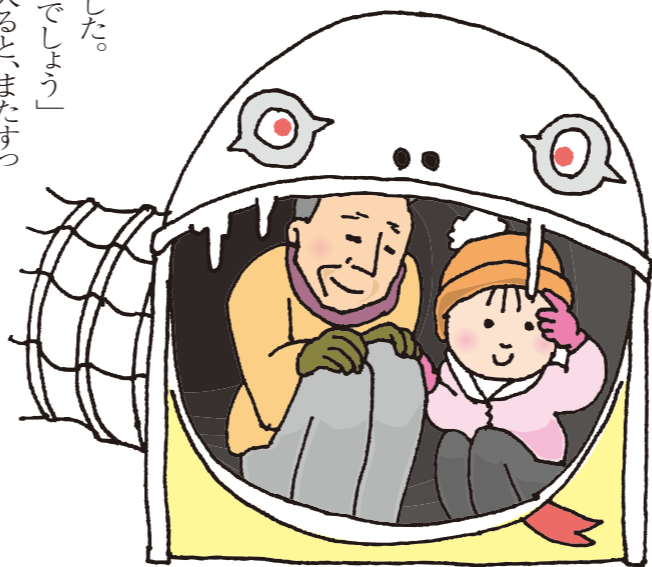
4歳6カ月  
かまくら



この冬の一番の大雪が降って、中国地方でも相当な雪が積もり、寒さが続いたためになかなか溶けなかった。アヤも今年初めての雪でとてもはしゃいでいる。雪遊びをしようということになって、道の駅「湖畔の里 福富」にある「ふれあい広場」という遊園地に皆で行った。雪が積もった滑り台を滑り降りたり、買ったばかりの幼児用スキーを履いて雪の中を歩いたりして、アヤはすっかり夢中になっている。

そこに突然猛烈な雪が降り出して、風も吹き始めた。口も開いてられない状態である。これは雨宿りならぬ雪宿りをするに限ると、ジイジは遊具の二つに駆け込んだ。アヤもそれに続く。この遊具、よく見ると、別の遊具の入口らしいが、大人が中腰で入れるくらいの丸い構造をしている。ちょうど雪国で見る「かまくら」(雪で作った家状の穴倉)のようだ。居心地がよくてアヤもジイジもすっかり寛いでしまった。アヤは入口に下がっているツララをポキン、ポキンと折っては悦に入っている。

雪もやんだので、外に出ると、パパとママが夢中になって大きな雪だるまを作っている。なんでも、この道の駅で雪だるま大会をやっていて、いい雪だるまには賞品が出るのだそうだ。そういえば、まわりでもいろんな人達が頑張っていて、それぞれ個性的な雪だるまを作っている。



アヤもひとしきり雪だるま作りのお手伝いをしていたが、すぐに飽きてきて、「ジイジ、またあの『かまくら』に行こう」と言つて、ジイジの手を引っ張ると走り出した。「もう雪もやんだし、雪宿りの必要もないでしょう」と言つてもどんどん走る。「かまくら」に入ると、またすっかり寛いで、座っている。もう、ツララも折り尽くして残っていない。何もすることは無いけど、中にいるだけでいいらしい。そのうちバアバが探しに来て、気が変わったのか、バアバと外に出て、他の遊びをはじめた。

アヤはどうしてあの「かまくら」みたいな遊具が気に入っているのだろう。そういえば、子猫が段ボール箱が好きで、中に入つてじっとしているのを見かけることがある。あの生態はどこから来たのだろう。生まれてすぐの頃、段ボール箱に布を敷き詰めて飼われていたのを懐かしんでの行動だろうか。そうかも知れない。いや、もつと遡つて、母親のお腹にいたときの安心感を本能的に感じているのではないだろうか。アヤを子猫と一緒にするわけではないが、母親の胎内にいたときの安堵感は、誰でも本能的に持っているのかも知れない。

後日談になるが、この日、パパとママが夢中になって作った雪だるまが、何と、たくさんの作品の中で二等賞に選ばれ、この地域の特産品がどさり送られてきて、一家でおいしくいただいた。

## ジイジの 気付き



幼児のいろいろな行動の中には、本能的に備わったものもあるのかも知れない。

## ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。  
weekly@pressnet.co.jp  
「心のめばえ」係へ

プロフィール むた・たいぞう 1937年、福岡県生まれ。  
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修士、  
理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福  
山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀  
樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力  
学」(裳華房)などがある。東広島市在住。